SIDR 滋賀県感染症情報
SHIGA Infectious Diseases Report
週報 平成 26 年(2014 年)第 18 週 (4 月 28 日～5 月 4 日)

発行年月日:平成 26 年 (2014 年) 5 月 9 日
発　　行:滋賀県感染症情報センター
滋賀県衛生科学センター 健康科学情報担当
電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
e-mail:eh4505@pref.shiga.lg.jp

- **報告数の多かった感染症は感染性胃腸炎、インフルエンザ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**
- **感染性胃腸炎の定点当たり報告数は先週に引き続き多い。長浜保健所管内では警報発令中、草津、東近江および彦根保健所管内でも他の保健所管内と比べて多く報告**
- **A 型肝炎、先天性風疹症候群および麻しんの全国集計値は過去 3 年間の同時期と比べて多い**

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 18 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 2例	70歳代男性;1例、80歳代男性;1例、肺結核;1例、無症状病原体保有者;1例
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2例	10歳以下男性;1例(O157 VT2)、10歳以下女性;1例(血清型および毒素型不明)
	四類感染症	報告なし	
	五類感染症	報告なし	
第 17 週以前の診断例 (*)	二類感染症	結核 1例	80歳代女性;1例、肺結核;1例、

(*)平成26年 第 1 週以降に診断され平成26年第 18 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 26 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県		保健所別(18週)							平成26年累計		平成25年累計※	
		17週	18週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	3	2	1	0	0	0	1	0	0	68	7,752	277	26,471
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	3	142
	腸管出血性大腸菌感染症	1	2	1	0	0	0	0	1	0	5	312	40	4,033
四類	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	305	0	128
	レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	299	18	1,111
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	350	6	1,041
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	1	284
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	178	3	358
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	2	205
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	90	5	207
	後天性免疫不全症候群	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	448	13	1,550
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	76	3	106
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	683	11	970
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	455	3	1,220
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	181	122	14,357
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	31
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	324	2	232

※ :平成26年1月現在 の暫定数

3.　定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関（指定報告機関）から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

警報；　感染性胃腸炎　長浜保健所管内（警報開始基準；20.00、警報終息基準；12.00）

注意報；　なし

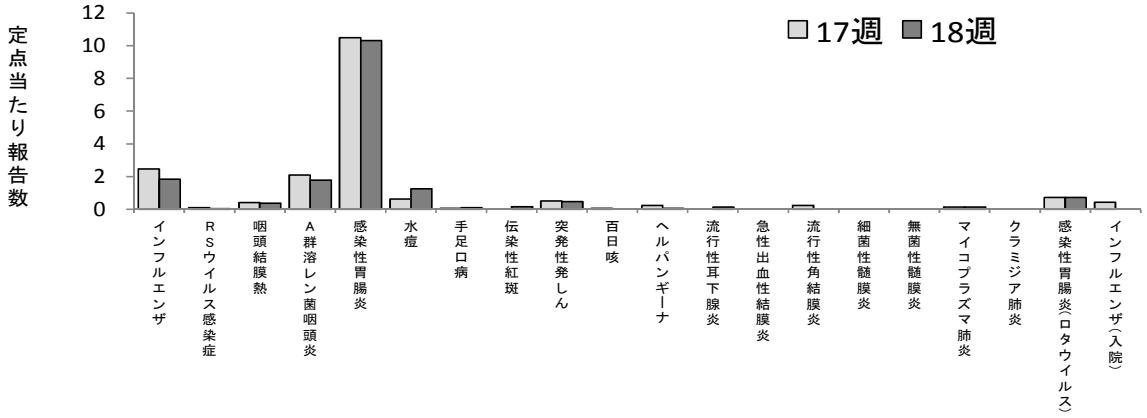
1）報告数の多かった感染症は感染性胃腸炎、インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎です。

2）感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第 17 週と同様に 10.00 以上で推移しています。特に長浜保健所管内で多く、先週から警報発令中です。草津、東近江および彦根保健所管内でも他保健所管内と比べて多く報告されています。滋賀県（10.31）と福井県（16.36）は近隣府県（京都府；7.68、大阪府；9.22、奈良県；6.56、岐阜県；4.75、愛知県；4.55、三重県；7.11）と比べて多く報告されています。

3）A 群溶血性レンサ球菌感染症の定点当たり報告数が草津および甲賀保健所管内で他保健所管内と比べて多く報告されています。

4）水痘が大津市および東近江保健所管内で他保健所と比べて多く報告されています。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4.　定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています（定点当たり報告数＝報告数/定点医療機関数）。

定点区分（定点数）	疾病名	滋賀県		保健所別（18週）						
		17週	18週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ（53）	インフルエンザ	2.47	1.83	5.00	0.60	1.43	0.88	0.43	1.14	2.67
小児科（32）	RSウイルス感染症	0.09	0.03	0	0	0	0	0	0.25	0
	咽頭結膜熱（プール熱）	0.41	0.38	0.14	0.50	0.75	0.60	0	0	1.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.09	1.78	1.43	3.50	3.00	1.20	0.25	1.00	1.50
	感染性胃腸炎	10.50	10.31	7.14	11.17	9.00	12.20	15.00	***14.00***	0
	水痘	0.63	1.25	2.14	0.17	0.75	3.00	0.25	1.25	0
	手足口病	0.06	0.09	0.14	0.17	0	0	0	0.25	0
	伝染性紅斑（リンゴ病）	0	0.16	0.43	0.17	0.25	0	0	0	0
	突発性発しん	0.50	0.47	0.43	0.67	0.50	0.40	0.50	0.50	0
	百日咳	0.06	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	0.25	0.06	0.14	0	0	0.20	0	0	0
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0	0.13	0.29	0.17	0	0.20	0	0	0
眼科（8）	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	0.25	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹（7）	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.14	0.14	0	0	1.00	0	0	0	0
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※	0.71	0.71	1.00	0	1.00	1.00	0	0	2.00
	インフルエンザ（入院）※※	0.43	0	0	0	0	0	0	0	0

＊　平成25年10月14日の滋賀県感染症発生動向調査事業実施要綱改正に伴い、基幹定点からの報告数（定点当たり報告数）を掲載

＊＊平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数（定点当たり報告数）を掲載

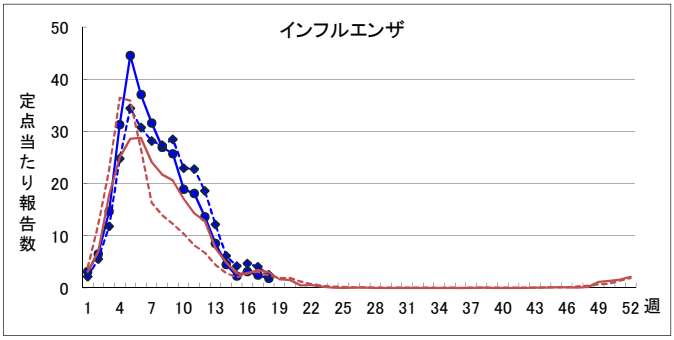
赤字：　警報レベルの基準値（開始基準値または終息基準値）を超過

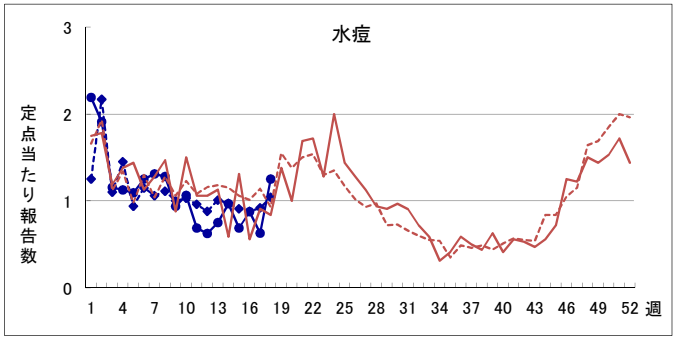
紫字：　注意報レベルの基準値を超過

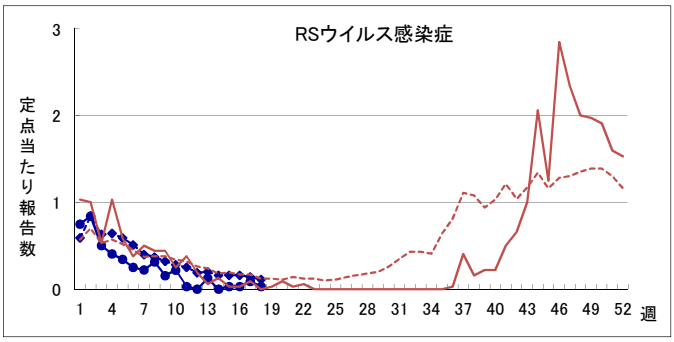
5-1. 疾病別定点当たり報告数

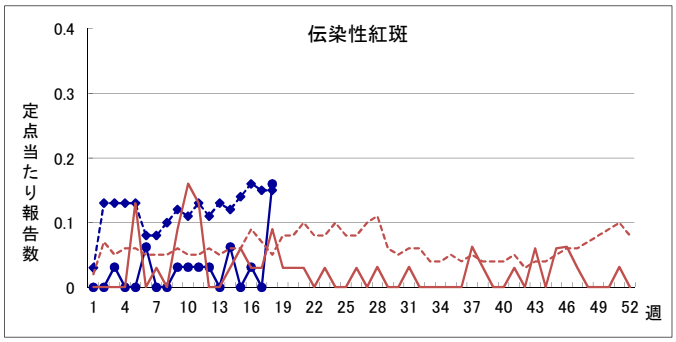
平成26年第18週

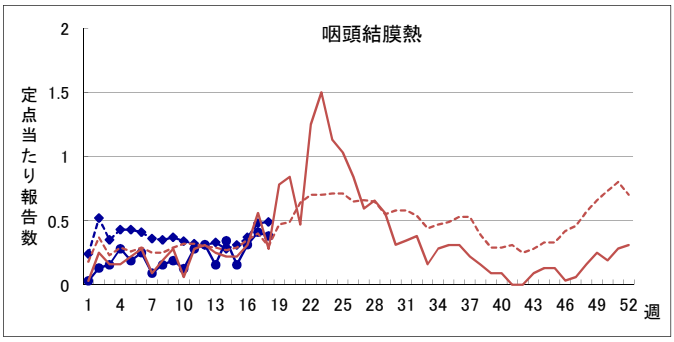
平成25年　全国　　平成25年　滋賀県
平成26年　全国　　平成26年　滋賀県

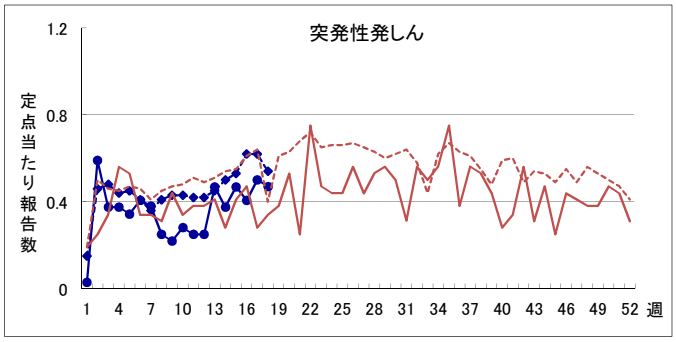


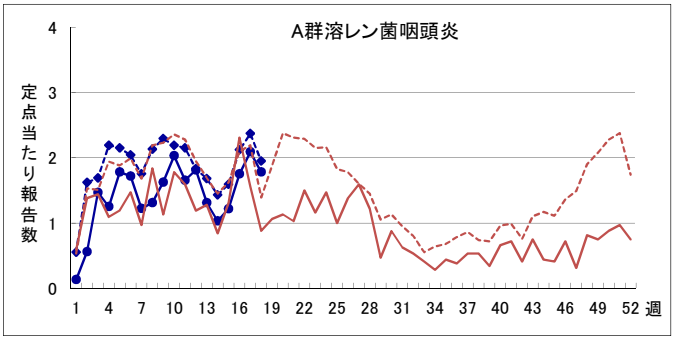


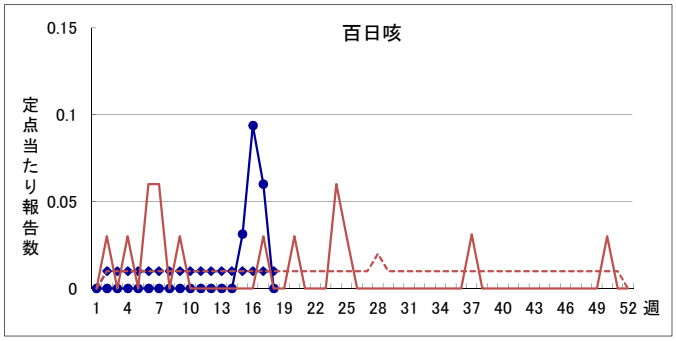


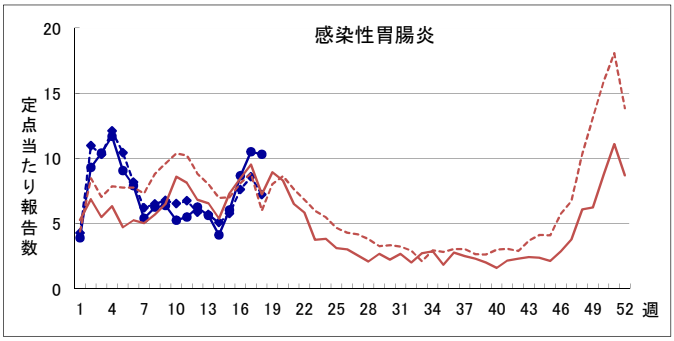


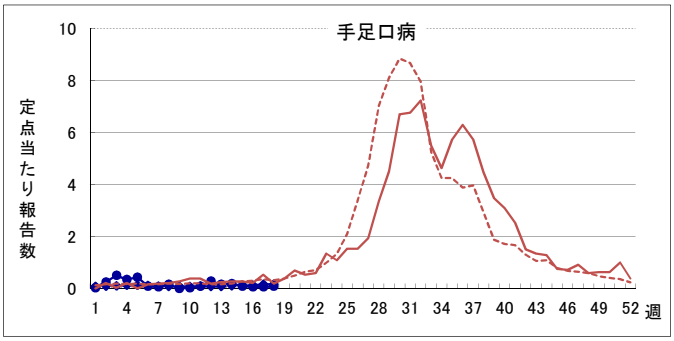








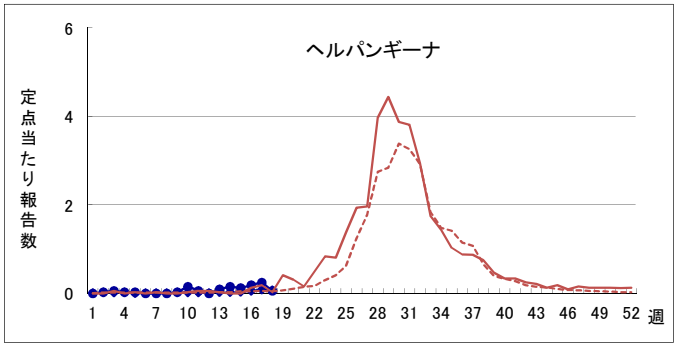


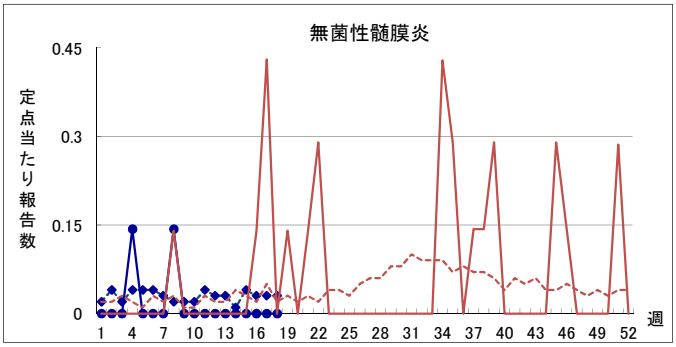


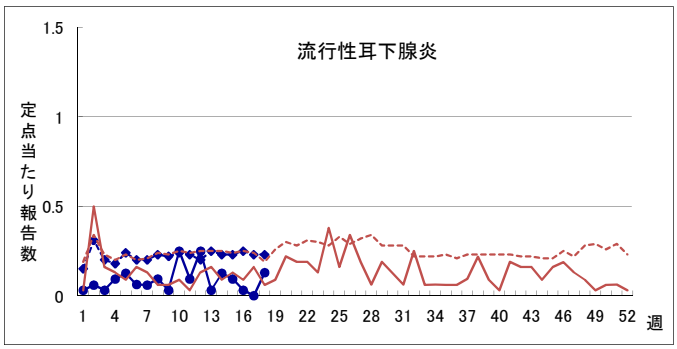
5-2. 疾病別定点当たり報告数

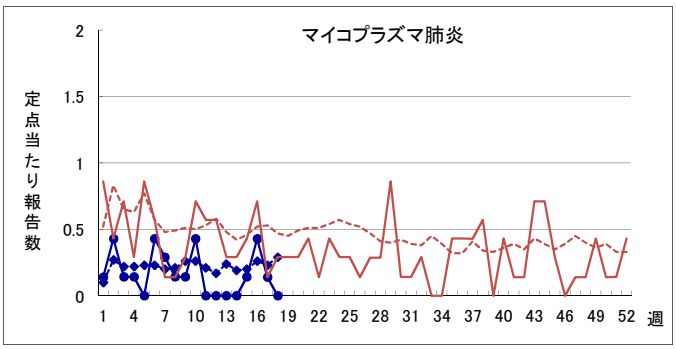
平成26年第18週

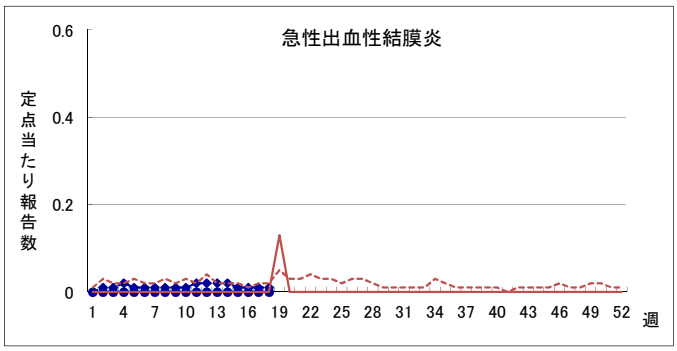
平成25年　全国　　平成25年　滋賀県
平成26年　全国　　平成26年　滋賀県

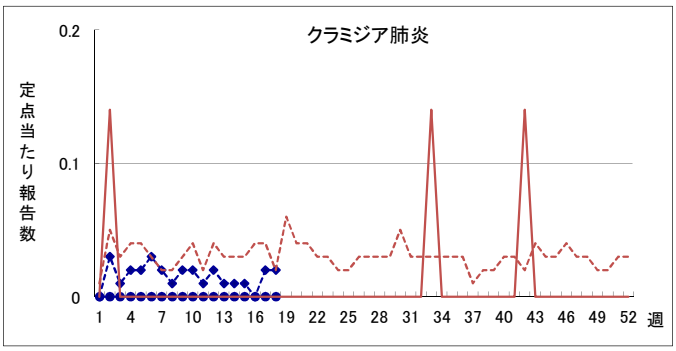


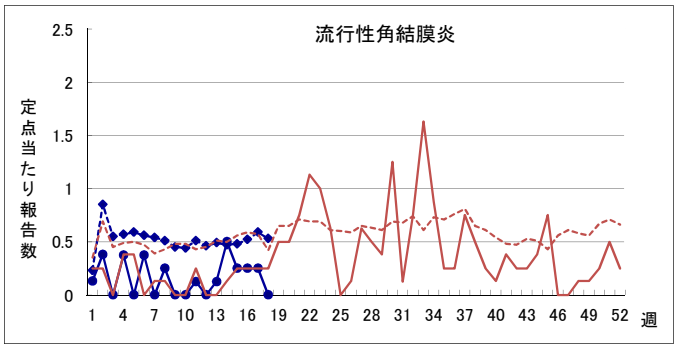


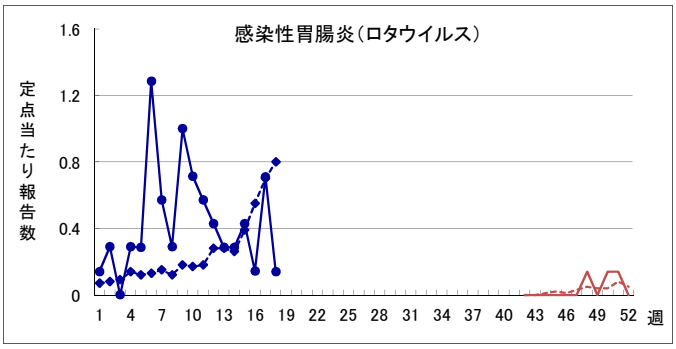


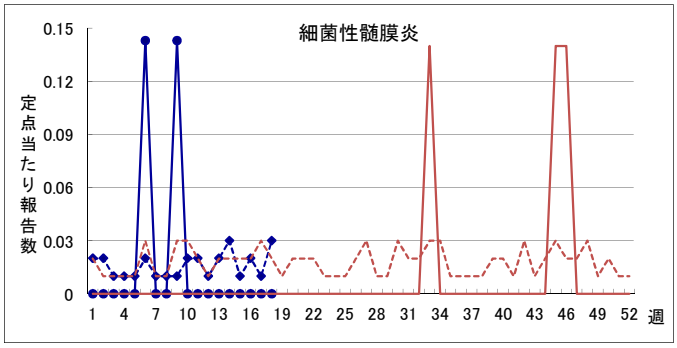


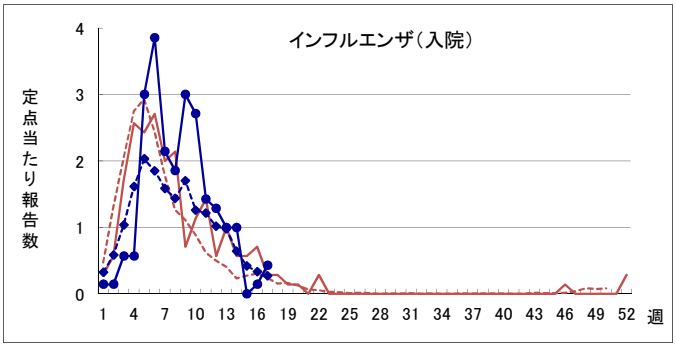












平成26年5月4日現在

感染性胃腸炎の発生動向
平成26年第18週

1. 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第17週と同様に10.00以上で推移しています。
2. 長浜保健所管内で多く、先週から警報発令中です。草津、東近江および彦根保健所管内でも他保健所管内と比べて多く報告されています。
3. 滋賀県（10.31）と福井県（16.36）は近隣府県（京都府；7.68、大阪府；9.22、奈良県；6.56、岐阜県；4.75、愛知県；4.55、三重県；7.11）と比べて多く報告されています。
4. 患者は、2～3歳、4～5歳および1歳以下の順に多く報告されています。

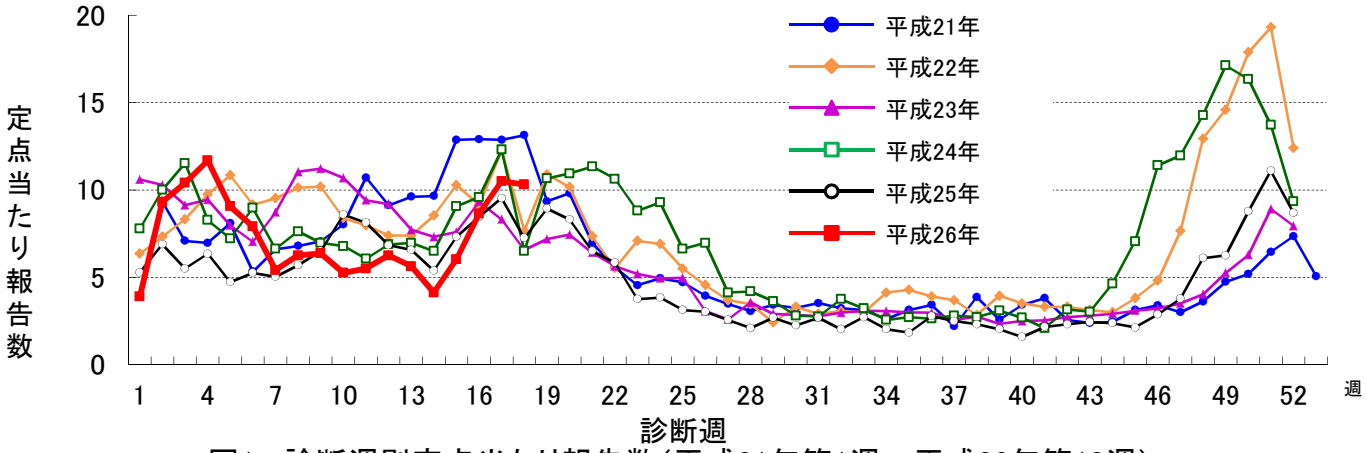


図1. 診断週別定点当たり報告数（平成21年第1週－平成26年第18週）

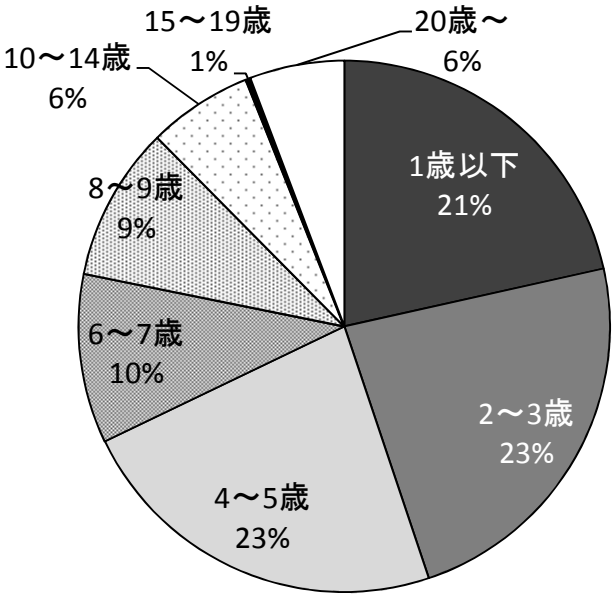


図2. 年齢割合
（平成26年第18週、n=330）

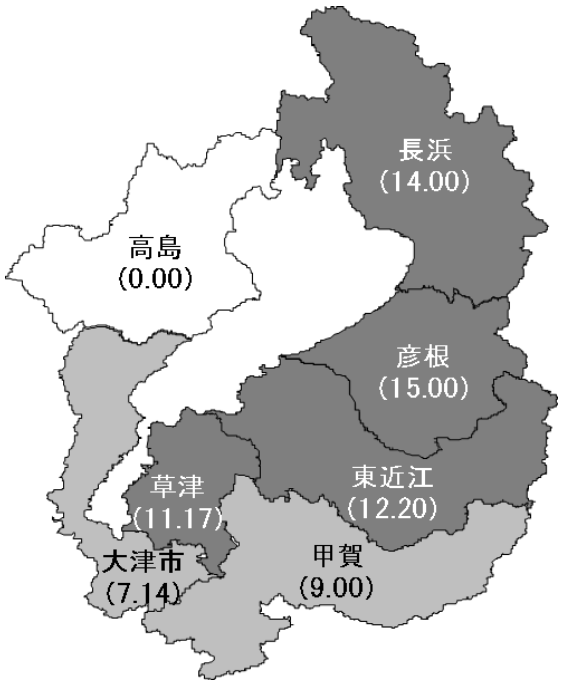


図3. 保健所別定点当たり報告数
（平成26年第18週 ）

1. 県内の小児科定点医療機関32か所より届出された感染性胃腸炎の患者の年齢分布は図2のとおりですが、本調査では小児科以外からは届出されないため、成人を含めた年齢分布は把握されておりません。
2. 冬季の感染性胃腸炎の原因の多くは、感染症発生動向調査の病原体サーベイランス等の過去の調査によって、ノロウイルスであると推定されています。